

令和元年度 自己評価・施設関係者評価報告書

1. 本園の教育目標

- 「いまの時を豊かに生きる」
- 「こども時代をこどもらしくたっぶり生きる」
- 「学びにつながる本物との出会い」

一人ひとりが「神さまに愛されている大切な存在である」ことを大切に、人生の根っこである幼児期を周りの人たちの温かな見守りの中で安心して過ごし、自分の好きなことが存分にできること、自然と関わりながらお友達といっばい遊ぶこと、絵本や音楽など豊かな文化に触れること、いろいろな経験をしながら、こども時代をたっぶり生き、人としての基礎「人生の根っこ」を育み、成長とともに会おう様々な困難や葛藤にも向き合う力、すべてに感謝し一生懸命に生きる力を育む。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・昨年度に引き続き、園舎及び園内環境の整備、及び、安全対策の向上を図る。
- ・教職員一人ひとりが教育要領への理解を深め、保育の質を高めることを目指すとともに、子どもへの共通理解をもって教育・保育にあたる。
- ・幼児教育・保育の無償化実施後の保護者ニーズを精査し、ホームクラスの運営計画を見直す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	園舎及び園内環境の整備、及び、安全対策の向上を図る。	A	施設の改修・補修により、防犯上の安全対策を整えることができた。
2	教育要領への理解を深め、保育の質を高めることを目指す	B	学期ごとに指導計画を振り返り、子どもの実態にに応じて、修正・見直しを行う。
3	子どもへの共通理解をもって教育・保育にあたる。	B	ミーティングでクラスの課題などを持ち寄り、様々な意見を出し合うことで、課題解決に向けた手立てを考える。
4	ホームクラスの運営計画を見直す。	B	従来の規定を見直し新規定を作成。運用し見えてきた課題を今後検討する。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	教育・保育活動では教職員一人ひとりが、子どもたちの興味に即した活動をうまくとりいれることができた。教職員間の連携と共通理解のためのミーティングの充実に課題がみられる。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	新型コロナウイルス対策	感染予防対策としての園内環境の整備・消毒を教職員が共通認識のもと、ダブルチェック体制をとり、管理を徹底していく。
2	園舎・園内環境整備	子どもたちが使用する教材・教具・玩具を精査し、充実させていく。また、築年数により、修繕、改修が必要な設備、備品を計画的に補修・新調していく。

3	新型コロナウイルスの影響下で、子どもたちの育ちの場をいかに確保するか	職員間の連携を強め、制限がある中であっても、どのようにすれば出来るかを考え、日々の保育を計画していく。
---	------------------------------------	-----------------------------------------------------

6.施設関係者評価委員会の評価

施設関係者による評価は概ね園の教育方針、運営に理解をいただいている評価を得ることができた。クラス編成・園行事についての意見や保護者のニーズなど、今後の園運営を考えていく上での貴重な意見をいただいた。これらの意見を元によりよい園運営ができるよう、協議・検討していく。